



一般社団法人  
うるわしの桜井をつくる会  
〒633-0091 奈良県桜井市  
桜井1259エルトさくら内  
TEL&FAX:0744-47-3981  
URL: <http://lets.some.jp>  
E-mail: [lets@some.jp](mailto:lets@some.jp)

平成25年9月

# うるわし通信

## 私人として生きるということ

桜井市の高齢化率は26.2%です。わたしたちは否応なしに高齢化社会に突入し、そのまっただ中にいるわけです。筆者も後期高齢者になりました。社会から退いた高齢者には私人としての生き方が待っています。いまや公的な圧迫を離脱して、自由な天地を得たのです。私人として全うするのが最終的人生であろうと思います。

私人となった高齢者には言論において圧倒的に、公人生活にない自由があります。しかも人生で蓄えた知識と体験があります。これを行行使することによって、単に公的な年金等の受益者という受動的な立場を脱して生き甲斐を持つことが大切と思います。

高齢者としての筆者はひとの世話になりたくないという気持が強く、葬式も拒絶しています。筆者の死体は献体され、解剖され、医学にいきさか役立させてもらうつもりです。

しかし、それでも最後は死体の処分に困り火葬という人手を煩わすこととなります。どこまでも、完全に私人として全うすることは難しい。

火葬といえば、筆者は中学一年の時、空襲に遭い、焼夷弾の猛火の中を逃げた思い出があります。中学生の筆者は防空訓練通りに消化作業に従事すべきだと思いました。警防団長だった父は駆けつけてくるなり「逃げろ」といいました。軍国少年だった筆者は父を卑怯と思い裏切られた思いでした。けれど、父のお蔭で生き延びたのです。

わたしの私人生活の今後は反戦・平和を周囲に伝えることにしたいと思っています。この思いを具体的にいかに伝えるか。マスメディアも反戦・平和を時に訴えますが、同時に大衆的ナショナリズムを煽ることを止めません。前の大戦は軍部だけの責任ではありません。マスメディアは国民を煽り、戦火の中へ投げ込んだのです。この責任はまだ充分、追求されているとはいえません。

ですから、筆者はマスメディアと離れ、権力から疎外されている思想を身につけることにより、現役生活時代からの自己革命を計りたいと思っています。



たわわに実った田園と三輪山

## プロジェクトへの取り組みについて③

うるわしの桜井をつくる会常任理事 中尾七隆

7月・8月号に引き続き、三輪地域における産学官民連携によるプロジェクト事業をご紹介します。

○プロジェクト6 三輪周辺地域におけるまちづくり(三輪地域から学ぶ まちづくりと雇用)  
＜今までの経緯＞

三輪周辺地域のまちづくりがスタートするきっかけとなったのは、2004年に景観法が成立し、これからは「景観」をめぐり、市民が主体で、行政や中間組織がそれを支援する取り組みがより活性化すると考えられ、2005年に奈良県がはじめての試みとして「県とNPO等との協働事業」に位置付け、(社)奈良まちづくりセンターから森とふれあう市民の会に協力依頼され、「三輪地域における地域に根ざした景観まちづくり推進プログラム」からスタートしました。

一市一まちづくり事業が始まる2010年までの間、県に協力いただきながら、畿央大学(三井田教授)及び三輪小学校と連携し、ワークショップやフィールドワーク等を繰り返し、三輪のまちづくりときめきマップ(三輪の色さがし、町家を新築・改修する場合のデザイン指針、町家活用提案など)、学生たちと三輪駅前広場に手づくり木製看板、三輪座カフェオープン、みわ月灯りなどに取り組んできました。

そして2009年から三輪座が特定非営利法人NPO化し、国土交通省の事業に応募採択され、現在、縁づくり(恋人の聖地運営・婚活)～住づくり(町家バンク)～建てる(自然エネルギーと地域木造住宅の普及活動)～周辺のまちづくり(町家ライトアップ)等に取り組んでいます。そして、2010年秋から参道(県道)整備事業をきっかけとして、三輪周辺のまちづくりを住民主体でおこなうという事業として一市一まちづくり事業が始まり、現在に至っています。

＜学習；まちづくりとは？＞

3年前、一市一まちづくり事業は、県でまちづくりの一役を担う「なら・まちづくりコンシェルジュ」(地域のまちづくりをサポートする知事公認の県職員有志)が、住民参加のまちづくり会議を始める前に、「まちづくりとは何か？」を住民の皆様としっかり学習しようということから始まりました。

そのまちづくり学習会を景観や観光地整備の専門家である東大の堀繁教授に県からお願いし、三輪恵比須神社で2回、視察研修(伊勢おかげ横丁)へ住民と行政関係者と2回に分け開催しました。当時、市長候補であった現松井市長と当時の札辻議長・東副議長も学習会に参加されました。



堀先生をなぜ三輪に関わっていただくことになったかという、堀先生は、単なる道路計画をするのではなく、まちづくりの視点を大切にされている。また、道路と関係するお店づくりのノウハウもお持ちであり、銀山温泉や道の駅などの実績をお持ちであったことからでした。そこで、堀先生から学んだ3点をご紹介します。

- ①点目；まちづくりとは、子どもたちや未来の仲間がこのまちに住み続けることであり、そのためには「人が来る⇒皆で儲ける⇒雇用が生まれる⇒地域が元気になり定住する」こと。
- ②点目；2：2：6の原理 2＝賛成する人 2＝反対する人 6＝どちらでもない人  
人類は全員が賛成することはあり得ないと理解し、反対する人も受容していくこと。
- ③点目；皆で儲けるためには、まず、できる人から儲かる店づくりを実践してみせること。

#### <実践1；儲かる店づくり>

堀先生よりレクチャーをいただき、カフェを改修しました。  
のぼり旗 ⇒斜めにたてる・文字は手づくり・竿は竹が良い  
メニュー ⇒板に手で書く（パソコン文字&ラミネートは×）  
品物の並べ方⇒コの字型&ひな壇状に並べる、壁も商品で埋める  
同じ商品でも場所を変えて配置する  
値札・ポップは説明を入れて手で書く  
開放的な窓 ⇒コーナの窓から、向こうにも窓が見える空間  
ベンチの置き方⇒一番良いスペースに置く（客が客を呼ぶ）等



売上げが2倍増になった三輪座カフェ

- #### <実践2；地域で儲けるしくみ> 実施例）うま酒三輪の歴史体験ツアー（経済産業省採択事業）
- 今西酒造が、「酒」というキーワードを軸に地元住民・地元企業と連携した観光サービスを企画・実施
- ・成果1、酒蔵見学の増加 昨年度対比500%⇒酒蔵の整備改修など建設業に仕事生まれる。
  - ・成果2、お土産物開発⇒酒粕葛餅、酒の入浴剤が人気酒粕葛餅、酒の入浴剤が人気。半年前に日本酒アイスが、全国ネットご当地アイスランク8位になったことも。
  - ・成果3、おもてなしのできるガイド育成；40歳代の地元主婦がガイドをする。  
⇒新たな雇用生まれる。地元しか知らないことを楽しく教えてもらえると好評。今西酒造以外のお店でもお金を落としていただく。  
旅行エージェント100社以上に営業をし、来月は、50～60名の予約が入っている。
  - ・成果4、成果を各地で発信することになる。⇒中小企業基盤整備機構より依頼があり、来月16日、兵庫県立但馬長寿の郷にて、「食と観光による地域活性化セミナーin近畿」に出演。

このように国は頑張る事業者をサポートしようとしています。今、我々市民に求められているまちづくりは、元気な地域の事業者（商店主～地場産業まで）を1人でも増やし、雇用を生むことです。桜井の悪き風習（＝儲かる人を妬んでいる場合）ではありません。また、行政は、税収をあげることであり、そのためには、行政の信用力を最大限発揮し、地元事業者をサポートすることが大切だと思います。そして、大学とは、景観まちづくり等の活動を通じ、学生と事業者が交流を重ね、将来を見据えた時に地域の大きな力となる学生を雇用していくことが重要だと思います。

地域資源を活かしたまちづくりに興味を持ち、桜井に就職しても良いと思っている学生がいることに着目してはどうでしょうか。

## 事務局だより

- 9月の常任理事会は9月21日（土）午後1時30分より「市民活動交流拠点」（まほろばセンター第1研修室）で行います。

## お知らせ

- 図書館友の会の9月読書会は「母(オモニ)：姜尚中著」です。

日時 9月24日(火)午後1時30分から

場所 まほろばセンター第1研修室

友の会会員以外の参加も歓迎します。

問い合わせ先

浅川肇：090-1961-6345

- 講演会「額田王と桜井」 講師：高城修三さん(芥川賞作家)

日時 10月20日(日)午後2時から

場所 桜井市立図書館 研修室1 参加無料

主催 うるわしの桜井をつくる会

後援 桜井・記紀万葉プロジェクト推進協議会

問合せ うるわしの桜井をつくる会：0744-47-3981

\*この事業は桜井市民協働推進補助金の交付を受けて実施します。



## まほろばナビゲーター講座

桜井市・三輪周辺地域を中心とした、万葉歌碑や歴史・桜井の特産品などを学び、多種多様の観光客を桜井に呼び寄せる若手の人材を育てる為の講習会です。

8月3日の第1回講習会では、「桜井の歴史・文学」という内容で、うるわしの桜井をつくる会の浅川・藤井による講義が行われ、第2回目は、桜井市纏向学研究センターの橋本輝彦さんによる「桜井の考古学」でした。(第2回講座は9月14日に再講されます)

第5回目は、観光カリスマの刀根浩志先生より、「ガイドのノウハウ」と「モデルコースの作り方」をレクチャーしていただく予定です。5回とも全て受講された方には、「修了証」が授与されます。修了者の方々には、市記紀万葉100選を活用しモデルコースの作成に関わっていただく予定です。

今後の予定

講座2	桜井の考古学	9月14日(土)	午前9時～12時	市立図書館研修室2・3
講座3	桜井の産業	9月21日(土)	午前9時～12時	市立図書館研修室2・3
講座4	桜井の観光と景観	9月28日(土)	午前9時～12時	市立図書館研修室2・3
講座5	実践フィールドワーク	10月5日(土)	山の辺の道(予定)	

**編集後記** 8月はアツイ・アツイの連発でした。わたしのような戦中戦後派にとって8月は気候上の暑さだけでなく、心理状態も厚く、濃厚です。6日の広島、9日の長崎、15日の敗戦。盆と重なって死者への追悼、理想への絶望から追及へと多感な心をもてあましていました。秋の爽風が追いつめられた、わたしたちを解放してくれることを願っています。

(あさ)

うるわし通信編集責任者  
〒633-0091  
桜井市桜井142-5-203  
浅川 肇  
TEL090-1961-6345